

デザインワークショップ 2023年

主婦への共感から 新商品を開発しよう

桐ヶ谷 綾菜



主婦への共感から新商品を開発しよう

子育て世代主婦のモーニングルーティンまたはナイトルーティン
を閲覧し、家事のようすを観察することで、

“家事の時短につながる商品”

“普段家事をしない人が手伝いたくなる商品”

を考えます



2023年6月

125

146か国中

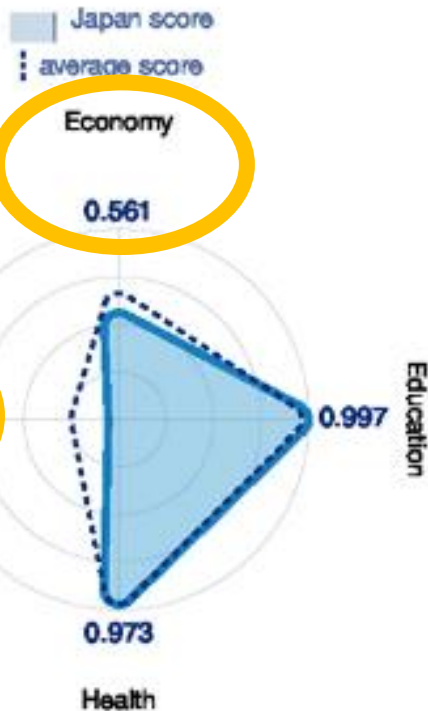
世界経済フォーラム 今年6月発表

2023年度版

「ジェンダーギャップレポート」
男女平等ランキング

過去最低…

Global Gender Gap Index 2023 Edition



Overview

Index and Subindex

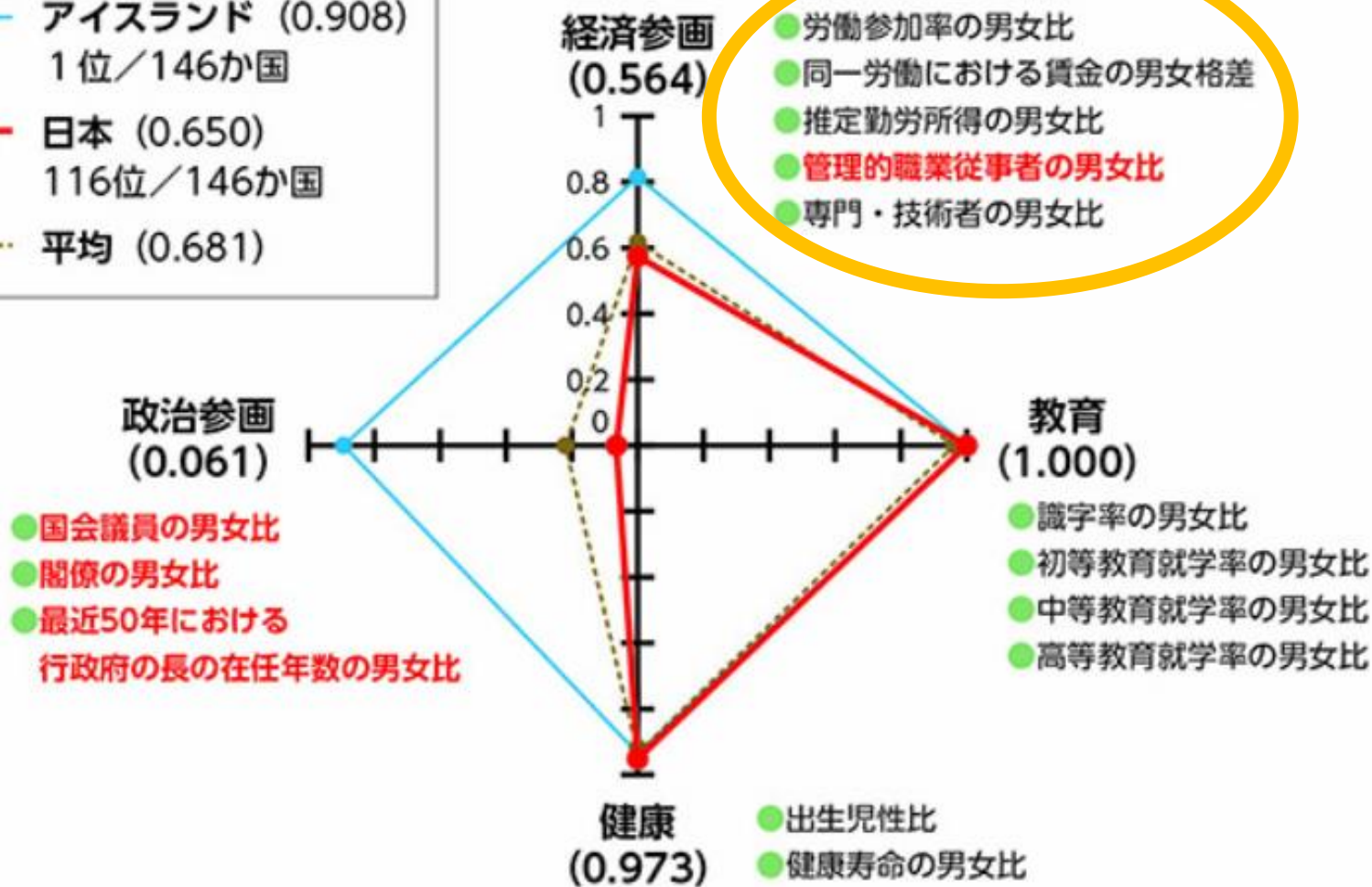
Global Gender Gap Index



Index and Subindex	2023		2022	
	Score	Rank	Score	Rank
Global Gender Gap Index	0.647	125th	0.650	116th
Economic Participation and Opportunity	0.561	123rd	0.564	121st
Educational Attainment	0.997	47th	1.000	1st
Health and Survival	0.973	59th	0.973	63rd
Political Empowerment	0.057	138th	0.061	139th

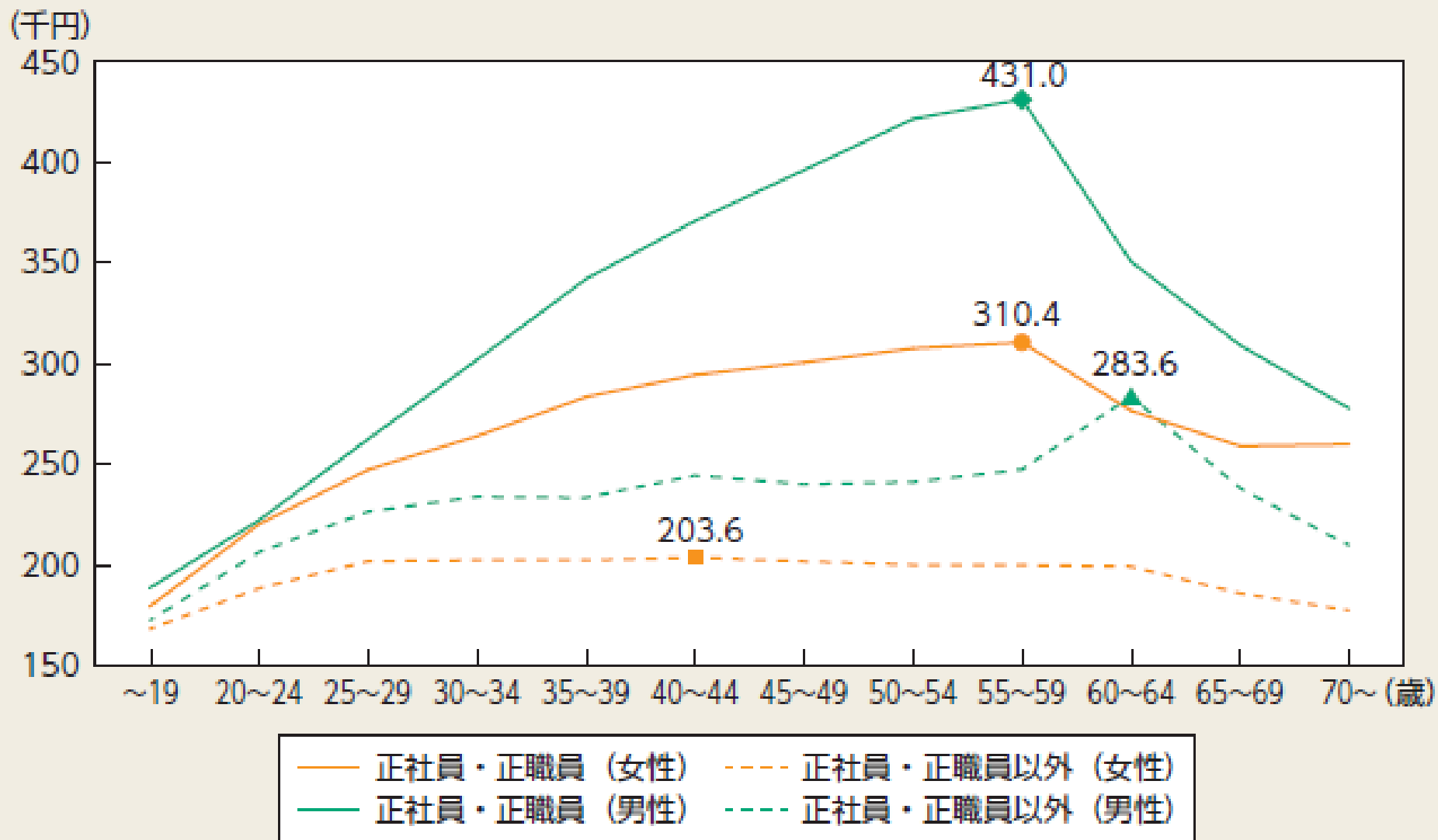
Global Gender Gap Index Indicators

2023



(備考) 1. 世界経済フォーラム「グローバル・ジェンダー・ギャップ報告書 (2022)」より作成
 2. スコアが低い項目は赤字で記載
 3. 分野別の順位：経済 (121位)、教育 (1位)、健康 (63位)、政治 (139位)

特-34図 所定内給与額（雇用形態別・年齢階級別）（令和4（2022）年）



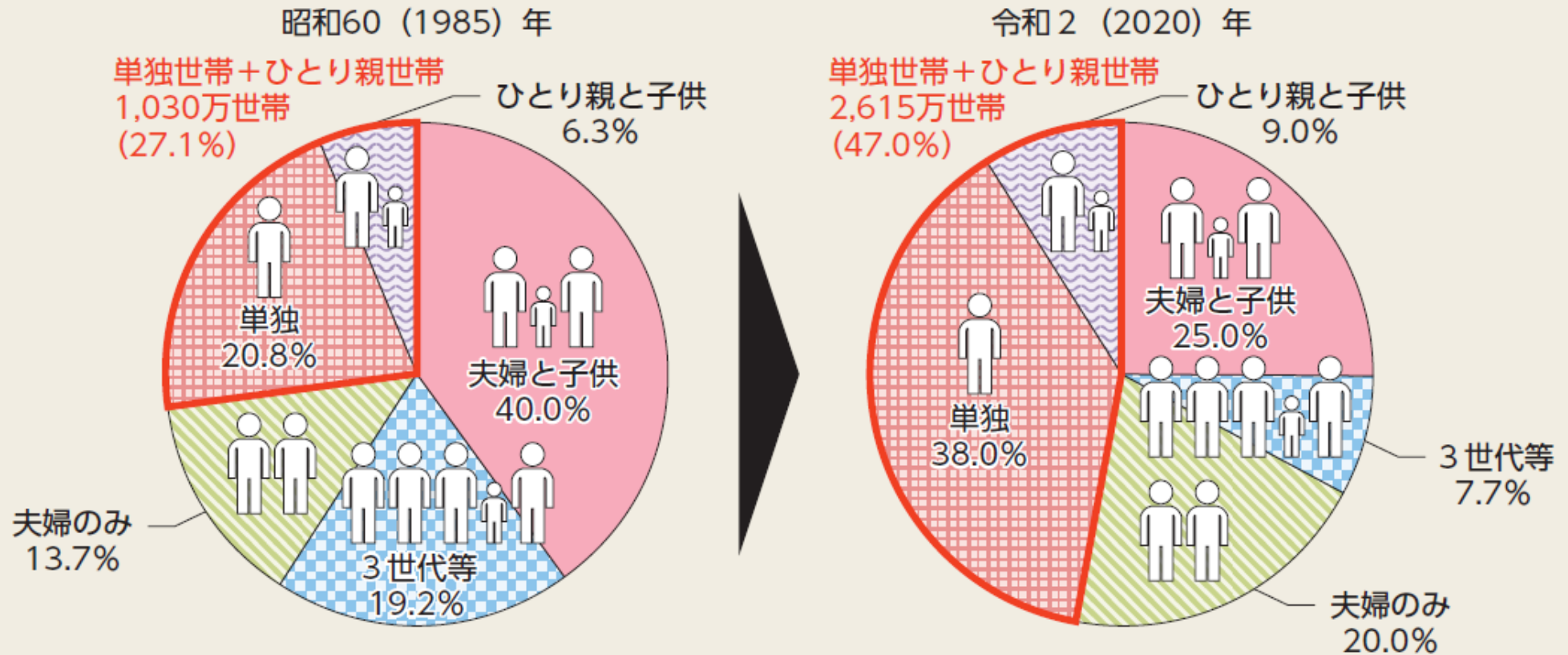
（備考）厚生労働省「令和4年賃金構造基本統計調査」より作成。

Question

**女性が
活躍できる社会に
必要なものは？**



家族の姿の変化



(備考) 1. 総務省「国勢調査」より作成。

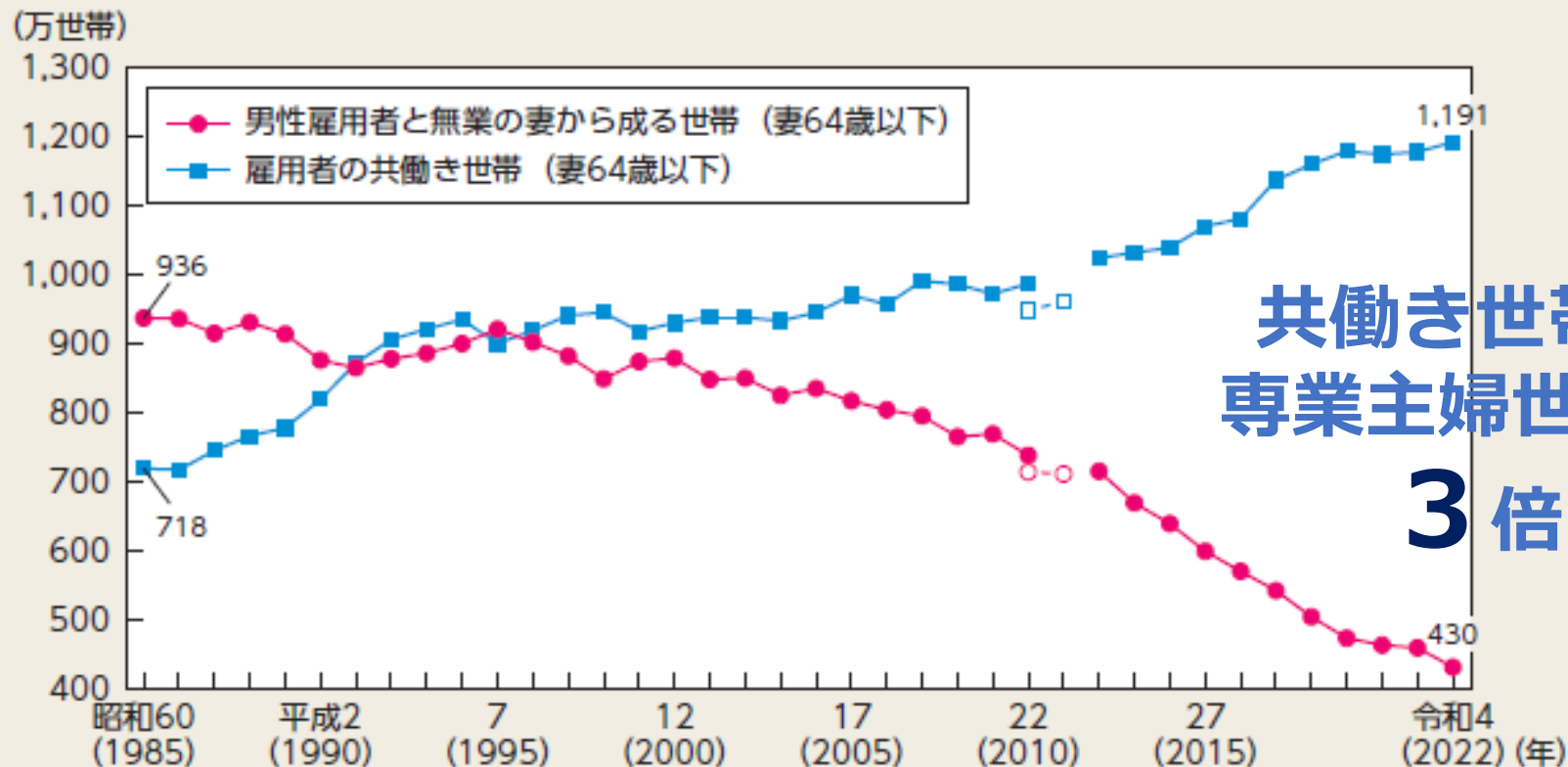
2. 一般世帯に占める比率。施設等に入っている人は含まれない。「3世代等」は、親族のみの世帯のうちの核家族以外の世帯と、非親族を含む世帯の合算。

3. 「子」とは親族内の最も若い「夫婦」からみた「子」にあたる続柄の世帯員であり、成人を含む。

(内閣府 男女共同参画局 男女共同参画白書 令和5年度版)

単独世帯とひとり親世帯が半分を占めるように

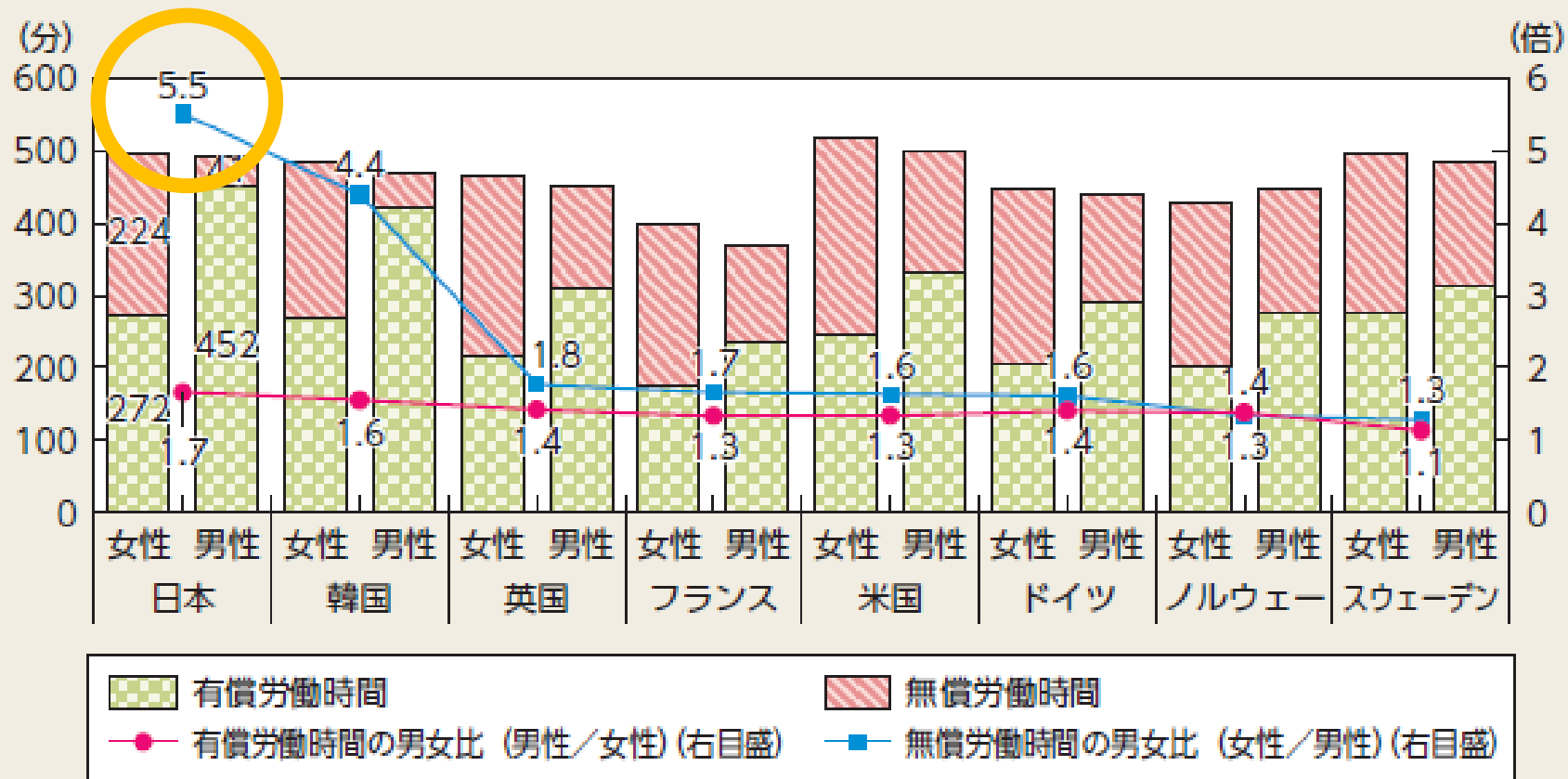
共働き世帯数と専業主婦世帯数の推移（妻が64歳以下の世帯）



共働き世帯が
専業主婦世帯の
3倍

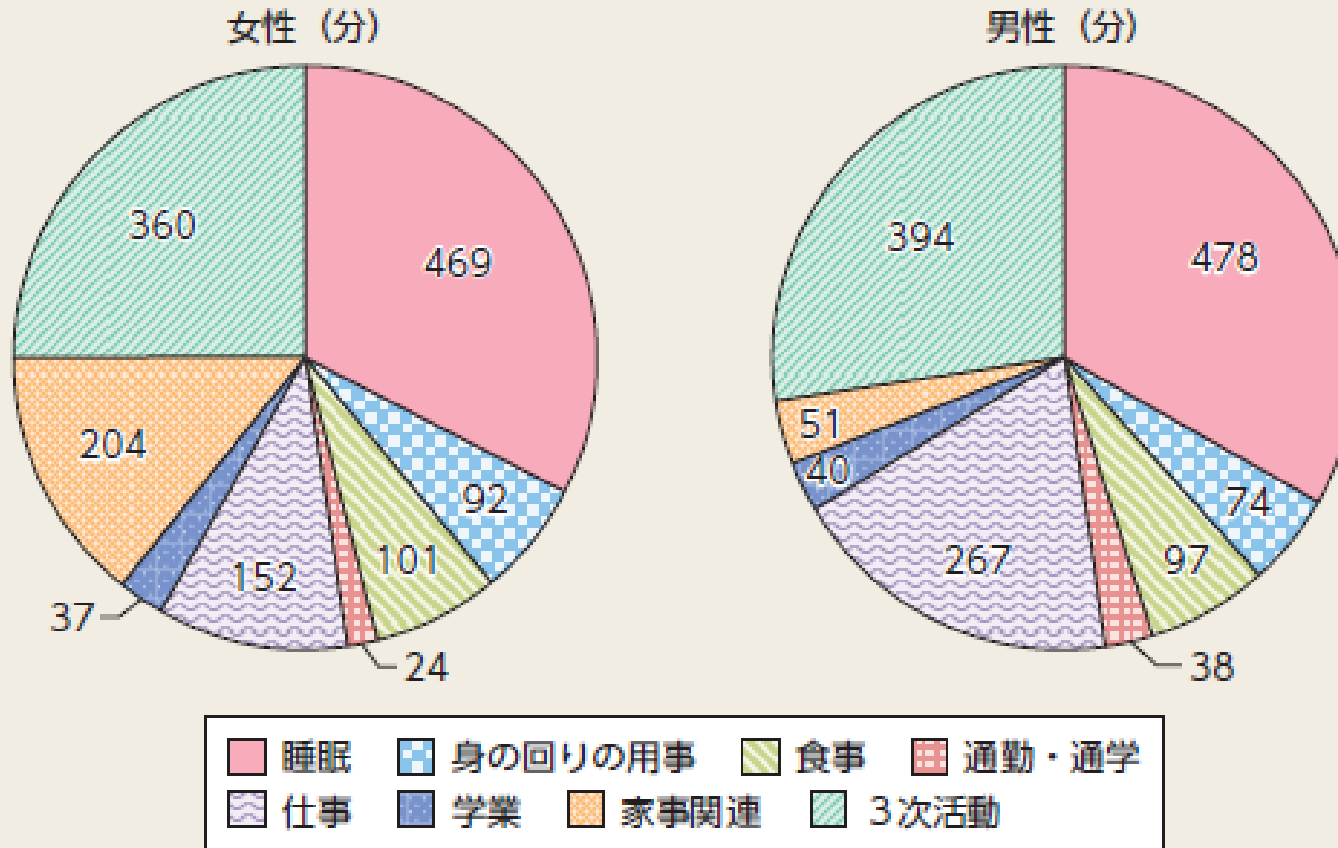
- (備考) 1. 昭和60 (1985) 年から平成13 (2001) 年までは総務庁「労働力調査特別調査」(各年2月)、平成14 (2002) 年以降は総務省「労働力調査(詳細集計)」より作成。「労働力調査特別調査」と「労働力調査(詳細集計)」とは、調査方法、調査月等が相違することから、時系列比較には注意を要する。
2. 「男性雇用者と無業の妻から成る世帯」とは、平成29 (2017) 年までは、夫が非農林業雇用者で、妻が非就業者(非労働力人口及び完全失業者)かつ妻が64歳以下世帯。平成30 (2018) 年以降は、就業状態の分類区分の変更に伴い、夫が非農林業雇用者で、妻が非就業者(非労働力人口及び失業者)かつ妻が64歳以下の世帯。
3. 「雇用者の共働き世帯」とは、夫婦ともに非農林業雇用者(非正規の職員・従業員を含む)かつ妻が64歳以下の世帯。
4. 平成22 (2010) 年及び23 (2011) 年の値(白抜き表示)は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。
5. 労働力調査では令和4 (2022) 年1月分結果から算出の基礎となるベンチマーク人口を令和2 (2020) 年国勢調査結果を基準とする推計人口に切り替えた。当グラフでは、過去数値について新基準切り替え以前の既公表値を使用している。

特-10図 男女別に見た生活時間（週全体平均）（1日当たり、国際比較）



- (備考) 1. OECD 'Balancing paid work, unpaid work and leisure (2021)' より作成。
 2. 有償労働は、「paid work or study」に該当する生活時間、無償労働は「unpaid work」に該当する生活時間。
 3. 「有償労働」は、「有償労働（すべての仕事）」、「通勤・通学」、「授業や講義・学校での活動等」、「調査・宿題」、「求職活動」、「その他の有償労働・学業関連行動」の時間の合計。「無償労働」は、「日常の家事」、「買い物」、「世帯員のケア」、「非世帯員のケア」、「ボランティア活動」、「家事関連活動のための移動」、「その他の無償労働」の時間の合計。
 4. 日本は平成28（2016）年、韓国は平成26（2014）年、英国は平成26（2014）年、フランスは平成21（2009）年、米国は令和元（2019）年、ドイツは平成24（2012）年、ノルウェーは平成22（2010）年、スウェーデンは平成22（2010）年の数値。（内閣府 男女共同参画局 男女共同参画白書 令和5年度版）

特-7図 1日の時間の使い方（週全体平均）（令和3（2021）年）

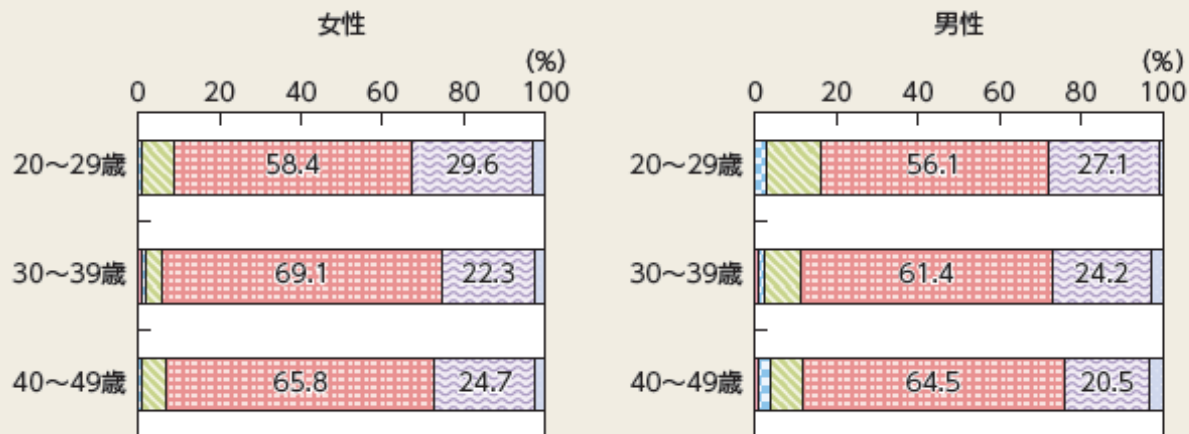


- (備考) 1. 総務省「社会生活基本調査」より作成。
 2. 対象は我が国に住んでいる10歳以上の人。
 3. 「家事関連」は、「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」の合計。
 4. 「3次活動」とは、睡眠、食事など生理的に必要な活動（1次活動）、仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動（2次活動）以外の、各人が自由に使える時間における活動を指し、「移動（通勤・通学を除く）」、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」、「休養・くつろぎ」、「学習・自己啓発・訓練（学業以外）」、「趣味・娯楽」、「スポーツ」、「ボランティア活動・社会参加活動」、「交際・付き合い」、「受診・療養」、「その他」が含まれる。

特-6図 年代別女性の就業継続に関する意識の変化

		女性			男性		
		平成12 (2000)年	平成21 (2009)年	令和元 (2019)年	平成12 (2000)年	平成21 (2009)年	令和元 (2019)年
20～29歳	子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい (%)	30.3	52.8	57.7	26.8	38.5	43.8
	子供が大きくなったら再び職業を持つ方がよい (%)	46.2	35.2	20.6	37.4	30.8	28.1
30～39歳	子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい (%)	36.1	47.0	68.4	37.0	46.9	62.9
	子供が大きくなったら再び職業を持つ方がよい (%)	43.4	39.4	23.2	36.1	31.3	23.4
40～49歳	子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい (%)	40.2	52.8	73.7	35.5	52.0	57.0
	子供が大きくなったら再び職業を持つ方がよい (%)	38.1	34.0	19.2	40.8	26.5	25.8

<女性が職業を持つことに対する意識（令和4（2022）年）>

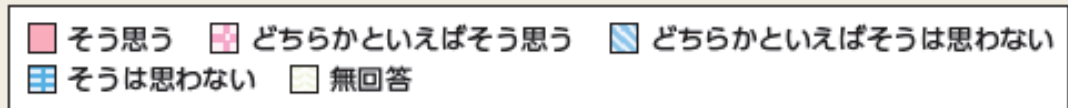
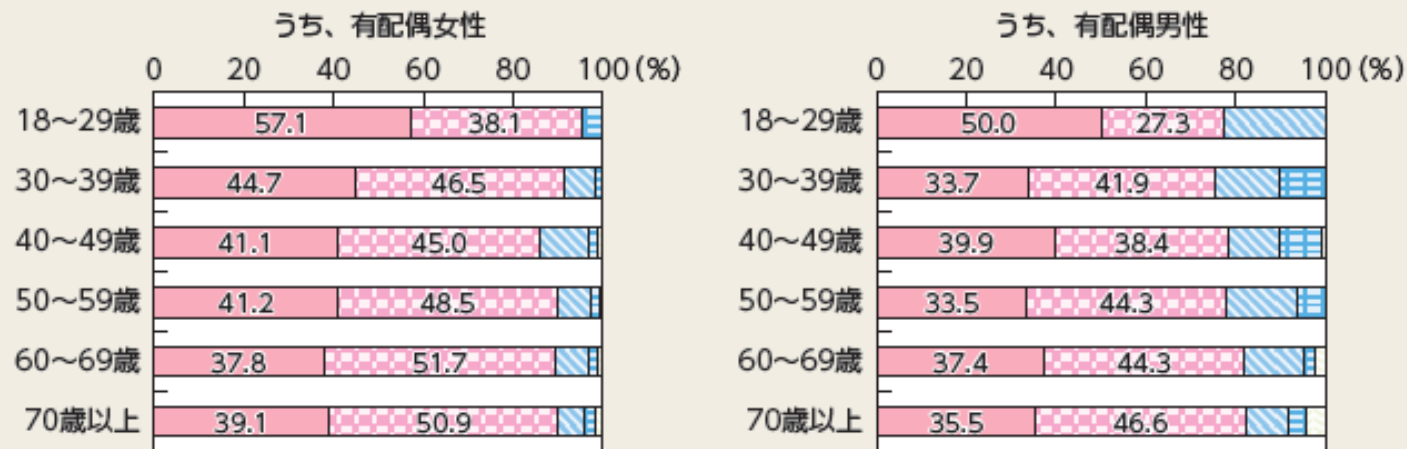
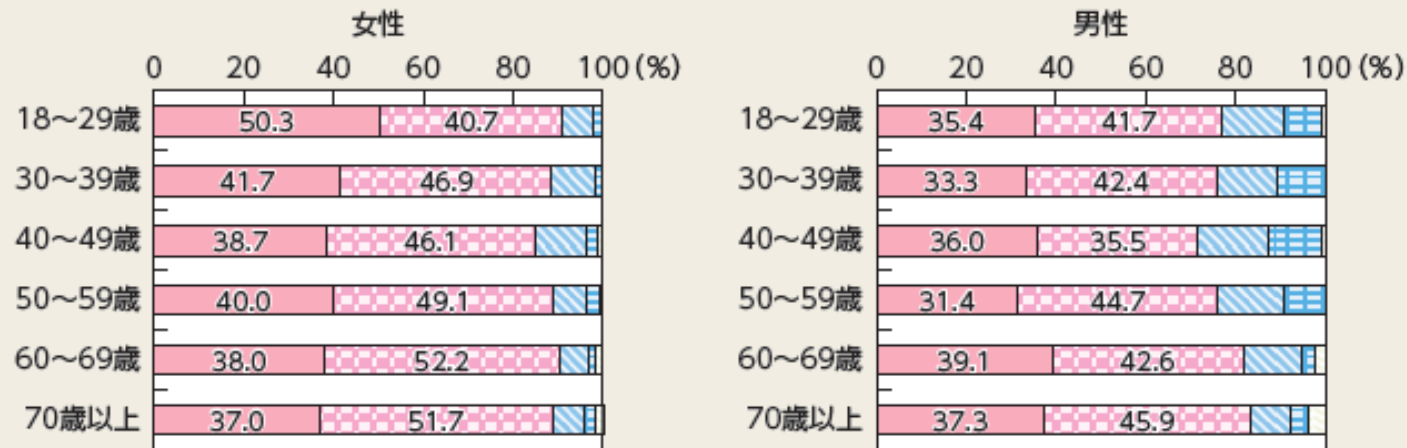


- 女性は職業を持たない方がよい
- 結婚するまでは職業を持つ方がよい
- 子供ができるまでは、職業を持つ方がよい
- 子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 子供ができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい
- 無回答

(内閣府男女共同参画局
男女共同参画白書
令和5年度版)

特-29図 職業生活において女性の活躍が進まない要因

<育児や介護、家事などに女性の方がより多くの時間を費やしていること>



(備考) 1. 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和4(2022)年11月調査)より作成。

2. 質問文は次のとおりとなっている。

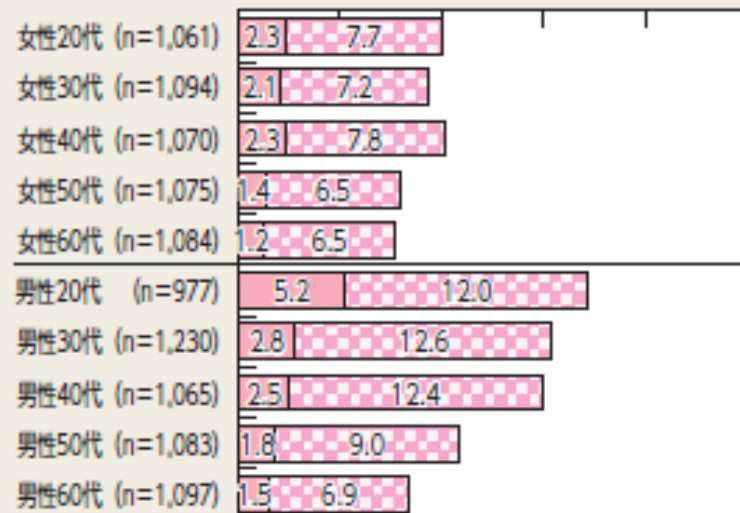
問9「育児や介護、家事などに女性の方がより多くの時間を費やしていることが、職業生活における女性の活躍が進まない要因の一つだという意見がありますが、あなたはこの意見について、どう思いますか。(〇は1つ)」

特-38図 職場の役割分担に関する意識



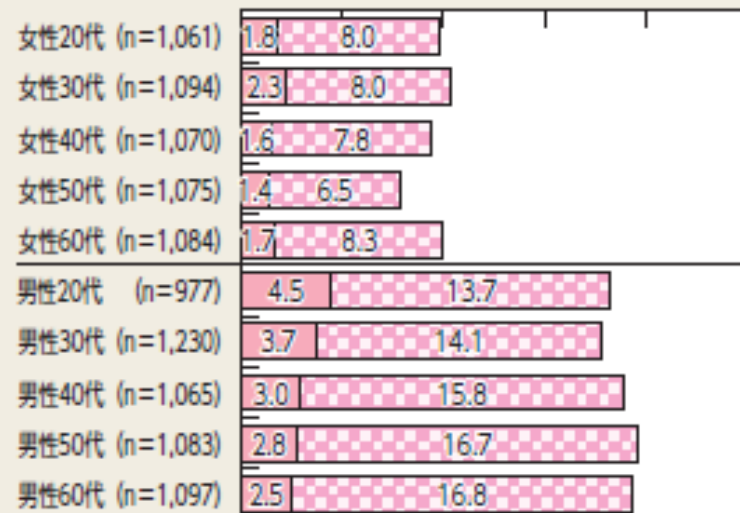
女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない

0 5 10 15 20 25 (%)



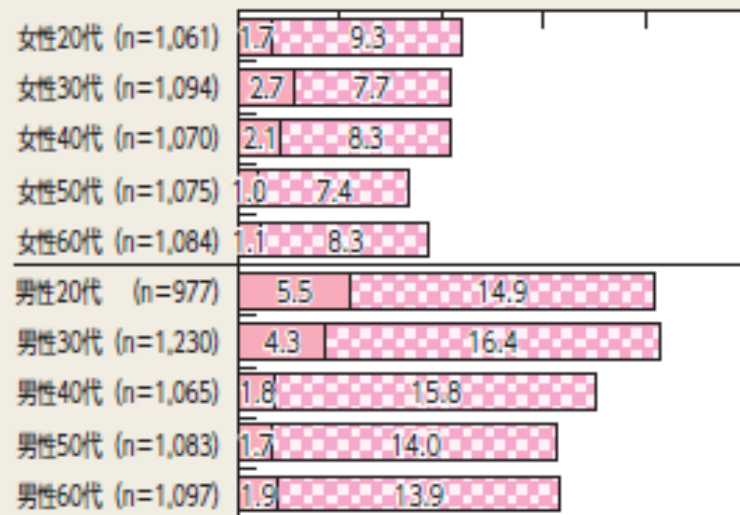
男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ

0 5 10 15 20 25 (%)



同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ

0 5 10 15 20 25 (%)



■ そう思う
 ■ どちらかといえばそう思う

(備考) 内閣府「令和4年度 性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究」より作成。

データからわかる事実

- ・ 時代と共に家族の構成は変化している。
- ・ 有償労働（仕事）時間が男性、無償労働（家事関連）が女性に偏っている。とくに無償労働時間の男女比は女性が5倍と諸外国にくらべて偏りが大きい
- ・ 女性の就業意識について性別で大きな偏りはなく、女性が就業継続をすることは女性も男性も肯定的
- ・ 女性も男性も無償労働時間が女性に偏っていることが女性の職業生活での活躍が進まない要因であるとか感じている
- ・ 女性よりも男性の方が、仕事における性別役割意識について強く感じていることが分かる

データから思うこと

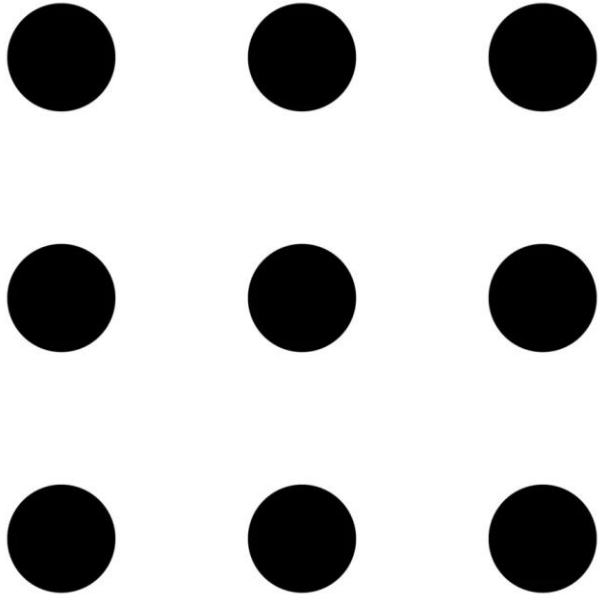
- ・ 有償労働時間が男性に偏る背景には、長時間労働や転勤等を当然とするはたらき方を前提とした雇用慣行の存在が影響しているのでは？
- ・ 伝統的な性別役割分担意識による家事・育児負担の女性への偏り、長時間労働の慣行が日本の女性の社会での活躍の遅れや、男女賃金格差の原因では？

必要なこと

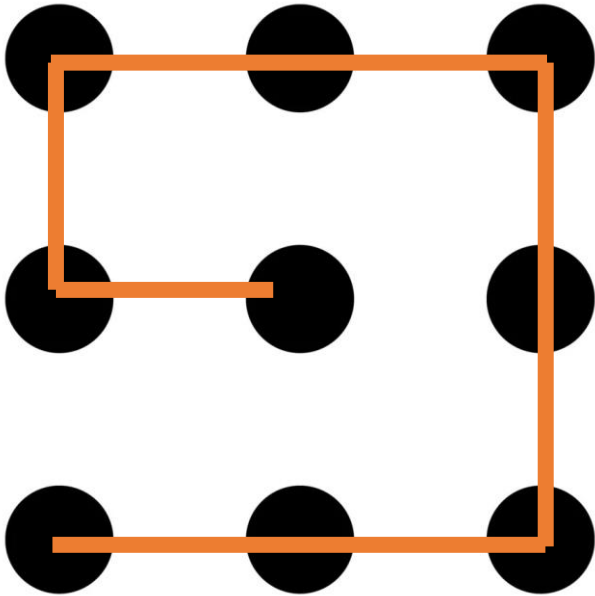
○伝統的な役割観に自身が捉われていることに気付く

○まずは女性の無償労働時間の正体を知る！

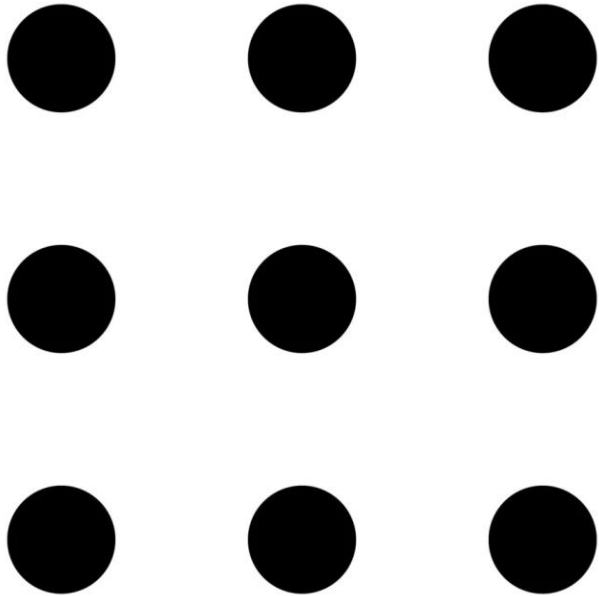
→モーニングルーティン動画の視聴



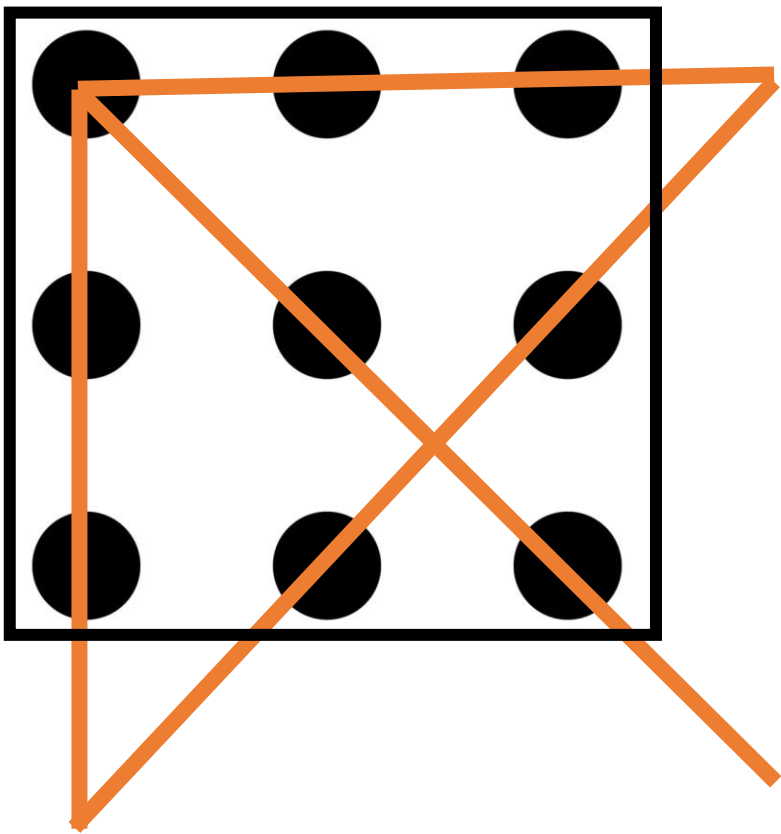
9つの点を一筆書きで
つないでください

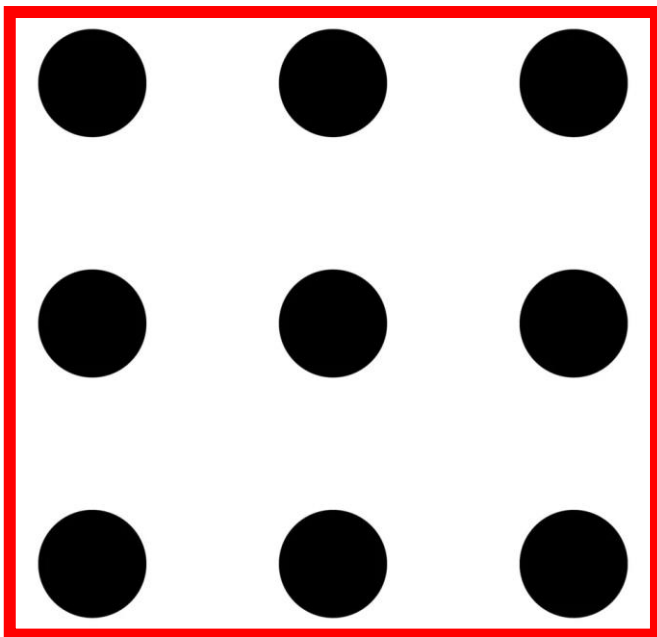


9つの点を一筆書きで
つないでください



9つの点を一筆書きで
4つの辺で
つないでください





← 無意識な思考の **枠**

アンコンシャスバイアス

アンコンシャスバイアスに気づくきっかけとして 主婦への共感から新商品を開発しよう

子育て世代主婦のモーニングルーティンまたはナイトルーティン
を閲覧し、家事のようすを観察することで、

“家事の時短につながる商品”

“普段家事をしない人が手伝いたくなる商品”

を考えます

